

## 学力向上プランの機能化を図る組織運営の一考察

学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけを通して

嘉麻市立稲築西小学校  
主幹教諭 宮脇 教子

こんな手立てによって…

月末同学年会で作成する学力向上プランの「評価・改善シート」を主幹教諭が収集、分析する。それをもとに、学年主任会において、主幹教諭が指導・助言、指示を行う。

こんな成果があった！

学年主任がプランの課題を明確にもち、学年会でさらに実効性の高いプランへと修正し、実行できた。そのことで、成員の協働性と児童の学力に高まりがみられた。

### 1 考えた

学力向上プランの機能化を図るためには、特にマネジメントサイクルの評価・改善を重視して取り組みを進めようと考えた。そこで月末同学年会で記入された「評価・改善シート」の指標・具体策・評価改善について主幹教諭が分析し、学年主任会で取組の共有をさせたり指導・助言、指示したりすれば、より実効性の高い「評価・改善シート」へと付加・修正・強化させることができるであろうと考えた。また、そのことによって、学年の成員の協働性を高めるとともに、児童の学力の向上が図られることを目指した。

### 2 やってみた

特に工夫した点は、主幹教諭が分析の際の視点や指導・助言、指示のねらいを明確にもち、学年主任に意図的な働きかけ（本文中：表2）を行うことである。

表中の下線部の内容を中心として、学年主任会の中で働きかけていくことで、学年主任に気付きを与えると同時に、学年主任会後

に、学年主任として学年の成員にどう働きかけていくかの見通しをもたせるようにした。

### 3 成果があった！

「評価・改善シート」を活用し、主幹教諭が学年主任に対して指導・助言、指示を与えたことで、学年主任にプランを改善する視点と見通しをもたせることができた。その後の同学年会で「評価・改善シート」を再検討し、実効性の高いプランに付加・修正・強化できた。また、学年の協働性を高め、共通理解から共通実践に結び付けることができた。さらに、確実な実践によって、児童の学力に伸びが見られた。

表2：学年主任会における学年主任に対する主幹教諭の主な働きかけ

A [評価・改善シートに記された内容について付加・修正・強化を認識させる]	
ア	「評価・改善シート」の内容を明確に自覚させるため、 <u>報告させる</u> 。
イ	内容のよさを取り入れさせるため、他学年の報告に対して <u>質問をしたり</u> 、よいと感じた部分を伝えたりさせる。
ウ	報告された内容について、付加・修正の必要性に気づかせたり、内容の強化を図ったりさせるために、 <u>内容のよさと課題を伝える</u> 。
エ	妥当な評価・改善を進めるために、ウの課題について協議した後、 <u>指導・助言、指示を与える</u> 。
B [学力向上策に係る同学年の協働性を高める役割を自覚させる]	
ア	同学年の成員の協働性について、課題を出し合わせる。
イ	課題の要因や解決の方向を協議した後、 <u>今後の方向を示す</u> 。
C [会後の同学年の成員への学年主任としての働きかけを明確にもたせる]	
ア	<u>今回の学年主任会の日程と内容を提示する</u> 。
イ	<u>会後の学年主任の動きを指示する</u> 。

## 学力向上プランの機能化を図る組織運営の一考察

学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけを通して

1	主題の意味	3
2	主題設定の理由	3
	(1) 研究の経過から	3
	(2) 児童の学力実態から	4
3	研究の目標	4
4	研究の構想	4
	(1) 評価・改善の重視について	4
	(2) 「評価・改善シート」について	5
	(3) 「評価・改善シート」の分析について	6
	(4) 学年主任会における主幹教諭の働きかけについて	6
5	研究の実際	7
	(1) 6月学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけ	7
	(2) 7月学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけ	9
6	考察	15
7	成果と課題	18
	<参考文献>	18

## 学力向上プランの機能化を図る組織運営の一考察

学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけを通して

嘉麻市立稲築西小学校  
主幹教諭 宮脇 教子

### 1 主題の意味

学力向上プランとは、学力向上の取組をシステム化するために作成するプランである。

機能化とは、そのものとしての十分な働きを発揮する状態に変えていくように、マネジメントサイクルを回していくことである。

学力向上プランの機能化を図る組織運営とは、学力向上プランがどの学年・学級においても具現化され学力向上の取組が進んでいくように、マネジメントサイクルのC（評価）・A（改善）の段階で、プランの実施状況を振り返って評価し、その根拠を明らかにして、次の具体策を打ち出す。そして、次のP（計画）・D（実施）へとサイクルを回していく営みを組織的に行うことである。

学年主任会とは、学力向上プランを機能化させるために月末同学年会で話し合った一カ月間の実施状況の評価と改善策を報告し合う会である。そして、他学年の取組のよさを共有したり、打ち出した改善策を強化・付加・修正したり、学年間で共通する課題の解決の方向を決めたりする場である。学年主任会は、校長・教頭・主幹教諭・学年主任10名（特別支援学級代表を含む）で構成し、会の企画・運営は主幹教諭が担い、月の第1水曜日に行う。

「評価・改善シート」とは、学力向上プランの実施者が、月末同学年会で学年プランの実施状況を評価し、改善策について話し合う際に使用するシートであり、主幹教諭が学年主任に対して提示する。

「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけとは、「評価・改善シート」によって学年ごとに可視化された学年プランの実施状況の評価と改善策を主幹教諭が分析し、学年主任に対して行う指導・助言、指示である。

### 2 主題設定の理由

#### (1) 研究の経過から

これまでも「評価・改善シート」を用いて、学力向上プランの実施状況を振り返り、評価・改善を繰り返してきた。その結果、学力向上に向けた組織的な取組が形作られ、機動するようになってきた。しかし、月末同学年会で評価し改善策を思考する作業を成員全員で行えなかったり、大まかな評価・改善作業になり形骸化がみられたりする学年が出てきた。

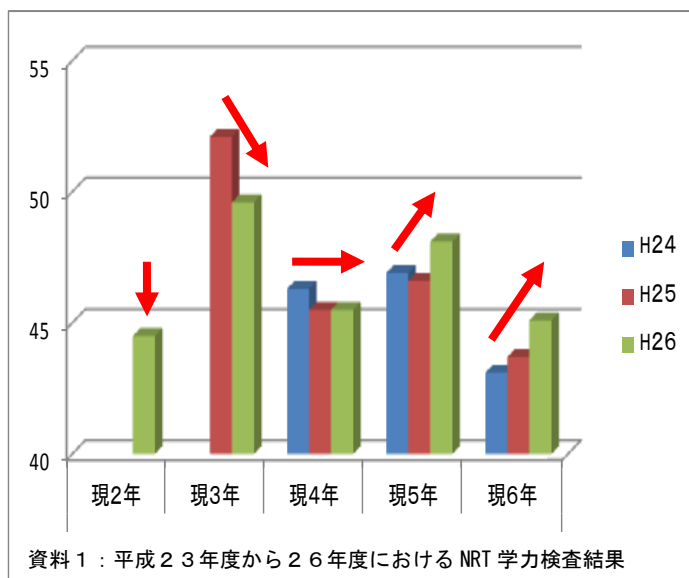
そこで、今後は、学力向上策の実施状況の評価と改善策を思考する作業を成員全員で取り組むことができるよう、運営面で学年主任をサポートする必要がある。そして、児童の学力を向

上させるのに有効な具体策を生み出せるようにしていかなければならない。

したがって、学年主任を中心として、望ましい学年会運営や実践を志向するように促すような主幹教諭の指導・助言、指示を重ねていくことが重要となると考える。

## (2) 児童の学力実態から

資料 1 は、平成 23 年度から 26 年度における「NRT 学力検査」の結果である。ここ数年間、



国語科・算数科ともに 45 ポイント前後で停滞してきた。

以前より、中学年で学力が定着しないという課題が続いてきたため、中学年の授業改善に力を入れてきた。その結果、4・5・6 年生の成績を保持・向上できた。

ところが、2・3 年生においては低いポイントになってしまった。学校総体として、組織的に学力向上プランを機能化させるための働きかけに課題があったといえる。

## 3 研究の目標

学力向上プランの機能化を図るために、「評価・改善シート」によって学年ごとに可視化された学年プランの実施状況の評価と改善策を主幹教諭が分析し、学年主任会において学年主任に対して指導・助言、指示を与える主幹教諭の働きかけのあり方を究明する。

## 4 研究の構想

### (1) 評価・改善の重視について

マネジメントにおいては、課題解決、改善を志向するため、何をどのように変えるのかを明らかにする C (評価)・A (改善) の段階が重要であると考えられる。しかし、全国的な傾向として、PDCA の中では、P (計画) の段階が最も活性化されており、D (実施) の段階、C・A (評価・改善) の段階の順で続くことが明らかになっている。また、C・A (評価・改善) の段階が活性化されていない原因が、C・A (評価・改善) の段階の困難さにあるといわれている。そこで、本研究では、これまでのマネジメントに係る反省の上に、全国的な傾向も踏まえ、C・A (評価・改善) の段階を重視する。

(2) 「評価・改善シート」について

「評価・改善シート」は、毎月、月末同学年会におけるC（評価）・A（改善）の際に用いる。これまで、月末同学年会で使用してきたシートは、資料2の様式である。しかし、これを用いて実施してきた評価・改善作業では、成員全員での作業が不十分であったことや改善策が曖昧になりがちであったことが課題として残った。

そこで、資料2のシートは、月末同学年会を迎えるための準備シートとして個人で事前に記入しておくシートとして活用することにする。そして、それをもとに、成員の反省を練り合い、資料3に示す「同学年会B（評価・改善）シート」にまとめるという手順に改善する。（同学年会Bという表現は、職員間において月末同学年会を指す）

また、資料3のシートでは、評価・改善の焦点化を図り、学力向上プランの視点2【授業づくり】、3【学力の基礎を培う活動】、4【学ぶ意欲・規範意識を育成する教育活動】について記入することにした。さらに、より実効性のある取組になるように、月ごとに取組の重点化を図り、「指標」をたて、達成に向けての「具体策」を打ち出し、実行した結果の「評価と改善」の項目について思考し、記入することにした。

月	視点2～7についての進捗状況、成果、次月の強化・改善点
5	視点3・5…各学級で充実した活動が行われている。 視点2・6…評価の方法を学年会で交流することを継続する。 学習規律について、チャイムを守ること、遅事は1回、5分休みは①準備のトイレ②水分補給の時間、発表するときはずは入れないなど確認した。早いうちに加配と相談して統一した学習規律を作りたい。
6	視点7…学期末ともなり、各学級の進捗の確認を行った。どの学級も国語がおかれている。来年度ひらがな指導との関連を図った。カリキュラムの見直しが必要。 視点6…研究授業を全員が行い、算数科における言語活動の在り方について考えることができた。学年で授業の話ができていないので早急に場をもち、2学期の実践につなげたい。 O分担任と協働により、それぞれの担任が全体の場での指導を行うことができている。平組集会、水泳指導、歌声タイム、七夕集会など
9	視点4…道徳の時間の確保ができていない。学活との関連が図れず、実践につなげていない。 O個別指導を1組数名に経休み加配教員が指導にあたっている。 O計算タイムの時間に文章題の問題に取り組ませている。運動会の練習が入り、時間の確保が難しかった。各クラス5・6回 読み聞かせは、視点3に入れているので継続したい。
10	視点3…読書量が増えている。図書室利用を学習時間以外（休み時間）にも広げるようにする。 視点5…学年通達の学級担当側の内容の工夫。（学級の実態を知らせるように…）。電話連絡、連絡帳連絡は密にできている。 視点4…学年で生活の重点目標を決め、学級以外の子にも声かけできるようにしている。9月チャイムを守る10月あいさつをする11月ろうかあそび O黒沢先生の師範授業を受けて、言語活動の充実を図る（式や図などの算数的表現を大切に…）。
11	視点4…生活目標「ろうかあそび」を設定し、生活委員会からの提案だけではなく、各クラスでの取り組みを継続して行った。 O学習の決まりについての進捗状況を確認した。チャイム席についてはどのクラスも良好だが、学習の準備については実態や取り組みが様々だった。子どもの自主的活動が行える工夫が必要である。
1	
2	

資料2：これまでの「評価・改善シート」

視点	2 (国・算を中心に)	3	4 (学習の約束を中心に)
指標			
具体策			
評価と改善			

資料3：評価・改善シート

なお、月末同学年会でのシートへの記入の順は、①当月「評価と改善」→新しい用紙へ→②次月「指標」→③次月「具体策」である。

### (3) 「評価・改善シート」の分析について

月末同学年会において記入された資料3に示す「評価・改善シート」を主幹教諭が収集して分析する。分析の際の主な視点を以下に示す。

<input type="checkbox"/> 当月「評価と改善」の内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当月の指標、具体策と整合した評価になっている</li> <li>・ 改善が必要な場合は、その方向が示されている</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 次月「指標」の内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当月の評価・改善を受けて、次月の指標を立てている</li> <li>・ 児童の姿で表現しており、見取りが確実にできる（できる限り数値化する）</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 次月「具体策」の内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当月の評価と改善を受けて、具体策を打ち出している</li> <li>・ いつ、何を、どのように、が分かるように計画している</li> </ul>

### (4) 学年主任会における主幹教諭の働きかけについて

学年主任会における主幹教諭の主な働きかけは、表2に示す。

表2：学年主任会における学年主任に対する主幹教諭の主な働きかけ

<b>A</b> [評価・改善シートに記された内容について付加・修正・強化を認識させる]
ア 「評価・改善シート」の内容を明確に自覚させるため、 <u>報告させる</u> 。 イ 内容のよさを取り入れさせるため、他学年の報告に対して <u>質問をしたり</u> 、よいと感じた部分を <u>伝えたりさせる</u> 。 ウ 報告された内容について、付加・修正の必要性に気づかせたり、内容の強化を図ったりさせるために、 <u>内容のよさと課題を伝える</u> 。 エ 妥当な評価・改善を進めるために、ウの課題について協議した後、 <u>指導・助言、指示を与える</u> 。
<b>B</b> [学力向上策に係る同学年の協働性を高める役割を自覚させる]
ア 同学年の成員の協働性について、課題を出し合わせる。 イ 課題の要因や解決の方向を協議した後、 <u>今後の方向を示す</u> 。
<b>C</b> [会後の同学年の成員への学年主任としての働きかけを明確にもたせる]
ア <u>次回の学年主任会の日程と内容を提示する</u> 。 イ <u>会後の学年主任の動きを指示する</u> 。

## 5 研究の実際

### (1) 6月学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけ

#### ① 5月末同学年会で記入された「評価・改善シート」の分析

5月末同学年会は、改善した「評価・改善シート」を使用することが初回だったため、月の「指標」、「具体策」を記入している。全学年分を分析すると、初回であるためか、指標と具体策の妥当性に課題がみえた。そこで、まずは、指標の考え方を指導する必要があると考え、次の学年主任会での指導・助言を以下の点に重点化することにした。

5月末の分析の重点

□ 指標について

- ・ 6月の1カ月間の指標として児童の姿で表現している。

資料4・5は、それぞれ1年生・5年生のシートの一部である。

【同学年会B 学力向上プラン（評価・改善）シート】 (6)月の重点		
視点	2	3
	(国・算を中心に)	
指標	算数に 算数的な操作と実体験 を重視した授業づくり	朝、宿題提出
具体策	算数については、ブロックや おはじき、カードも使って学 習を工夫する。 習熟カードを使う。	朝のうちに着 ている児童について やる。 保護者のサインを できたら、シール

資料4：第1学年5月末「評価・改善シート」の一部

【同学年会B（評価・改善）シート】 (5)年生 )月の重点		
	2	3
	(国・算を中心に)	
指標	市販テストにおける平均80点以 上の習熟をめざす。	県学カテストに備え、基礎となる 学習の習熟を図る。
具体策	学習の最後に形成的評価を位 置づけ、達成状況を把握すると ともに、十分に学習内容を達成 できていない子に対しては、時事 の学習までに再度指導していく。	家庭学習と朝の活動を連動さ せ、家庭学習にて教材集に取り 組ませ、朝の活動にてその解説 を行っていく。

資料5：第5学年5月末「評価・改善シート」の一部

1年生を見てみると、視点2の指標が「授業づくり」となっていて、児童の姿では見とれないものである。また、5年生を見てみると、視点3の指標が「習熟を図る」となっており、児童の姿としてどうなることが習熟を図った姿なのかが分からず、見取りに課題がある。しかし、児童の姿で数値化して表現できている指標もある。したがって、立てている指標のうち望ましいものを示し、比較検討させるように協議を進めることを通して、長いスパンでの目標と月の指標との関係に気づかせていくような指導・助言をすることにした。

#### ② 6月学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけ（表2参照）

**Aーアイ**

各学年主任が報告をし合ったが、質問や伝達は行われなかった。

**Aーウエ**

全ての学年に対して、よさと課題を伝えた後、課題について協議した。資料6は、協議の抜粋である。資料6中のSは主幹教諭、T1は1年生の学年主任を示す。

- S 指標を見てみましょう。2年生の視点2の指標は「漢字テストで毎回全ての児童が80点以上をとる」です。この指標では、80点以上取ったか取らないかという判断基準がはっきりしています。そこで、自分の学年の指標を見直してみてください。気がつくことを言ってください。
- T1 授業づくりができたかどうかは、教師の思いだけになりそうだとことは分かりましたが、どう修正すればいいかが、難しいです。
- T3 児童の姿で表現するのですか。それなら、私の学年も修正がいきます。「・・・習熟を図る」にしているので。
- T5 私の学年の視点2の指標は、「市販テスト80点以上」だから、これはいいと分かりましたが、視点3の「基礎となる学習の習熟を図る」としているのは、変えた方がいいですね。
- T3 目標だから、今立てている「・・・習熟を図る」でいいのではないですか。具体策さえ具体的にしておけば、実行できていくのだから・・・。実際、児童の姿で見とれないこともあるのではないですか。
- (中略)
- S 指標と目標は違います。「評価・改善シート」には、6月の1ヶ月間の重点化した取組を起こします。「習熟を図る」ことは、1年間の目標でしょう。そのために、6月はどのような壁を超えさせるのか、その基準を作りましょう。見取りができる基準でなければ、評価ができません。児童の姿で見とれるように、考えてください。なるべく、数値化することが望ましいです。

資料6：A—ウエに関する協議の抜粋

協議中の二重線の部分に表れているように、主幹教諭の働きかけによって、修正の必要性に気づいたり、強化したりしている。学年主任会後に提出された修正案では、どう修正すればいいか難しいと発言した1年生も「算数の市販テストの平均点を95点以上にする」と修正してきた。(資料7)

**B—アイ**

学力向上策は、どの学級でも取り組んでこそ成果が表れる。学年主任にはそのことを肝に銘じて学年の成員をまとめてほしい。そこで、協働性について気になることや困っていることを出させ、方向を見出せるように、資料8に示すように協議した。

【同学年会B 学力向上プラン（評価・改善）  
（6）月の重点

視点	2 (国・算を中心に)
指標	算数で 具体的な操作と実問題 重視した授業カリ。
具体策	算文については、ブロックや おはき、カードを使って学 習させる。 解題冊子を使う。 テスト平均 95点めえす。

資料7：1年生修正案

- S 新しい学年になって2カ月経ちましたが、学年としてまとまってきていますか。先生方の協働体制について、困っていることなどがあったら出してください。
- T5 今年度に限った事ではないのですが、学年でやることを全て自分がやっていってしまっているような気がしています。もう少し役割分担できたら、学年主任の仕事量を減らせると思うのですが。
- T3 他の人たちには、学年主任がどれだけの仕事をしているか伝わっていないのかも知れません。
- T2 でも、実際、本校には講師が多いこともあって、役割分担した方が二度手間がかかるということもあるので、均等な役割分担はできませんよね。
- T4 でも、やれそうな仕事を分担してもらえばいいのではないかと思います。実際、うちの学年では2名の講師がいますが、役割分担してできる仕事を任せることで、はりきってやってくれています。分からないことは、聞いてやってくれるから、その中で大事な考え方などを伝える機会にもなっていますよ。
- T5 仕事を割り振るといことは、遠慮がちになってしまって、分担しましょうと自分から言い出しにくいです。
- (中略)
- S 学年主任の皆さんの仕事量が増えているというのは事実ですよね。負担を減らすためにも、研修の日常化を図るためにも役割分担できそうな部分を今月はやってみてください。

資料8：B—アイに関する協議の抜粋



この協議では、学年の成員に役割を割り振ることに抵抗を示す学年主任の意識が表れた。しかし、役割分担を進め、協働性を高めたいという学年主任ばかりであることもわかった。そこで、6月は、学年の成員で役割分担できるように試みるよう指示した。

### C-アイ

6月末同学年会と7月学年主任会の日程を確認し、それまでにすることを指示した。

- この会終了後、修正できる部分を修正して、提出すること。
- 6月末同学年会を迎える前に、個人で評価・改善案を作成しておくように、成員に伝えておくこと。
- 協働体制を強め、役割分担を進めてみること。
- 具体策に書くことができないような詳細な計画は、同学年会A（月末以外の月曜同学年会）で話し合っ決めていくこと。

## (2) 7月学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけ

### ① 6月末同学年会で記入された「評価・改善シート」の分析

各学年の成員は、5月末同学年会で立てた6月の指標の達成に向けて、6月中、具体策を実行してきている。

そこで、6月末同学年会では、その結果を評価し、評価の根拠を明らかにしながら次月の方向性をもつ。そして、7月の指標を立て、具体策を打ち出している。つまり、資料9に示す網掛け部分を話し合い、記入している。全学年分を分析すると、指標については、前回の学年主任会での協議が生かされ、妥当性が高まっていた。しかし、具体策の具体化と評価・指標・具体策の整合性に課題が見られたため、次の学年主任会では、以下の点に重点化して指導・助言を行うことにした。

【同学年会B（評価・改善）シート】 [ ] 年生			
(6) 月の重点			
視点	2 (国・算を中心に)	3	4 (学習の約束を中心に)
指標	<input type="checkbox"/> .....	<input type="checkbox"/> .....	<input type="checkbox"/> .....
具体策	<input type="checkbox"/> .....	<input type="checkbox"/> .....	<input type="checkbox"/> .....
評価と改善	.....		

【同学年会B（評価・改善）シート】 [ ] 年生			
(7) 月の重点			
視点	2 (国・算を中心に)	3	4 (学習の約束を中心に)
指標	.....		
具体策	.....		
評価と改善			

資料9：6月末同学年会で記入している部分（網掛け）

- 6月「評価と改善」の内容について
  - ・6月の指標、具体策と整合した評価になっている
- 7月「指標・具体策」の内容について
  - ・6月の評価と改善・指標・具体策につながりがあり、妥当である。
  - ・具体策は、いつ、何を、どのように、が分かるように計画している

資料10は、5年生の「評価・改善シート」である。着目させたい部分にラインを引き、指導・助言のポイントをメモしながら分析した。

【同学年会 B (評価・改善) シート】 [ 5 ] 年生

( 6 ) 月の重点

視点	2 (国・算を中心に)	3	4 (学習の約束を中心に)
指標	市販テストにおける平均80点以上の習熟をめざす。	県学力テストに備え、基礎となる学習の習熟を図る。	忘れ物(学習に必要なもの、宿題)を減らす。
具体策	学習の最後に形成的評価を位置づけ、達成状況を把握するとともに、十分に学習内容を達成できていない子に対しては、時事の学習までに再度指導していく。	家庭学習と朝の活動を連動させ、家庭学習にて教材集に取り組ませ、朝の活動にてその解説を行っていく。	学年で「忘れ物0」強化週間を設定し、子どもに意識させるとともに、各学級にて毎日、確認、指導していく。
評価と改善	1単位時間内に形成的評価を行うことができないことがあり、徹底を図ることができなかったためであると考える。	各学級で確実に教材集に取り組ませることができた。	学年で取り組んだが十分な成果は見られなかった。忘れ物をする子は特定の子なので、引き続き忘れ物を意識する取り組みをつくっていく。

【同学年会 B (評価・改善) シート】 [ 5 ] 年生

( 7 ) 月の重点

視点	2 (国・算を中心に)	3	4 (学習の約束を中心に)
指標	単元「合同な図形」での平均80点以上の児童80%をめざす。	活用力診断テスト対策プリント6枚以上に取り組む。	強化週間、各学級40ポイント以上をめざす。
具体策	学習の最後に形成的評価を位置づけられるよう学習展開を工夫する。また、確実に形成的評価を実施し、目標達成状況を把握していく。	◎ 同学年教師間で役割分担し診断テスト対策プリントを作成するとともに、家庭学習と朝の活動を連動させ取り組ませる。	引き続き、学年で「忘れ物0」強化週間を設定し、学年掲示板を工夫することで、子どもに意識させていく。
評価と改善	学習展開をどのように工夫するのか。 先月も形成的評価が確実に実施できたから... 確実に実施する為の手立ては...		先月「忘れ物0」に取り組んだが成果見られなかった。特定の子が原因... 特定の子に対する手立ては... 周囲は...

資料10：6月末同学年会における5年生の「評価・改善シート」

5年生においては、指標が数値化されて表現されてきたことと、7月の視点3の具体策において、同学年教師間で役割分担することを計画している部分が望ましい変容であるにとらえた。前回の学年主任会において指導・助言した「指標の考え方」と、指示した「役割分担の推進」が意識されている。

一方、課題としては、6月視点2の具体策に対して「形成的評価が十分に実施できなかった」という反省がなされているが、7月も再度「確実に形成的評価を実施する」という具体策になっている。確実に実施するための、実施を阻んでいた要因を取り除く方策がほしいものである。同様に、6月視点4で「忘れ物0」強化週間に取り組んだが成果が見られなかったと反省されており、その原因が特定の子にあるとつかんでいるにもかかわらず、7月の具体策では、特定の子に対する手だてが盛り込まれずに、再度「忘れ物0」強化週間を設定している。また、具体策のもう一つの課題は、例えば「学習展開を工夫する」となっているが、学習展開の何をどのように工夫すればよいのか等、具体が見えないままになっていることである。同様の課題が他の学年にも見られた。

したがって、5年生のシートを検討素材とし、まずは、良さに気付かせる。そして、取組はつながっているのか、単なる繰り返しの取組になっていないか、具体的になっているか等を振り返らせ、修正案を持たせるようにしていくことにした。

## ② 7月学年主任会における「評価・改善シート」を活用した主幹教諭の働きかけ（表2参照）

### A-アイ

- S 前回の学年主任会では、「指標」の考え方と「役割分担の推進」について話題にしました。その2点について、改善がみられる部分を確認していきましょう。5年生のシートから見つけられますか。
- T3 5年生は、診断テスト対策プリント6枚以上に取り組むという指標を立てていますが、こういう量的な指標という考えが自分にはなかったので、参考にしたいと思いました。
- T6 5年生の強化週間のことですが、6月の指標は数値化できていなかった部分が、7月は数値化できていて改善されていると思います。
- T4 5年生もそうですが、1年生の指標も点数やパーセンテージで表現されていて、評価がしやすくなっていると思います。（5年生以外の学年シートに、視点が広がっていった）  
（中略）
- T2 役割分担は、なかなか進めることができていません。5年生の具体策にプリントを分担して作成していくことがあがっているのですが、こういう簡単なことから分担作業を取り入れていけばいいのかと分かりました。

#### 資料11：A-アイに関する協議の抜粋

各学年主任が報告をし合ったのち、改善がみられる部分を良さとして伝え合わせた。その抜粋を資料11に示す。

よさを伝えさせる中で、前回の学年主任会で主幹教諭として指導・助言、指示した内容のキーワードが、学年主任から表出されたことに意義があった。

### A-ウエ

つながりと具体化について気付かせるよう、5年生のシートに着目させて、協議した。協議の抜粋を資料12に示す。

- S 今回は、特に取組のつながりを見直してみます。5年生の視点2の取組を6月、7月と縦に見ます。取組は、縦につながっていますか。
- T3 評価は、80点以上にならなかったということで、その理由が書かれているのですよね。
- T5 そうです。
- T3 形成的評価を行えなかったのは、なぜだったのですか。
- T5 特に算数では、終末にミニテストのような形で行う予定でしたが、展開の時間が延びることが多くて時間が足りなくなるが多かったことと、担任がミニテストを準備できていないがありました。
- T4 それで、7月は学習展開を工夫すると書いてあるのですね。そこは、つながっていると思います。
- T6 ミニテストの準備を担当任せにすると、また、準備できずに同じ結果になるのではないかと思いますので、役割分担して作ったらどうですか。私の学年はそうしているのですが、教材研究のきっかけにもなっていますよ。
- S 自分の学年のつながりを見直してみてください。
- T5 今の協議で考えると、視点4を縦に見たときに、特定の子が忘れ物をするために忘れ物が減らないという反省をしていますので、7月は、特定の子に対する支援を強化する必要があると気付きました。
- T4 私の学年の方では、視点4の達成が悪くて、徹底されていない状況があります。だから、7月はもっと徹底させるための仕掛けを考えて、具体策にしなければいけないと思いました。また、同じやり方で継続しても、よくなりませんよね。それから・・・(省略)。
- S 今、皆さんの中から出てきたように、評価が悪かったら、何が原因だったのかを明確にして、次はその原因の部分を取り除くような手だてが必要ですね。1回やってだめだったから、これでもかと、全く同じことを繰り返すだけでは、改善に結びつかないことも多いです。さらに、具体的な策を立てていくようにしましょう。そして、いつ、何を、どのように実行するのかを明確に書いてください。

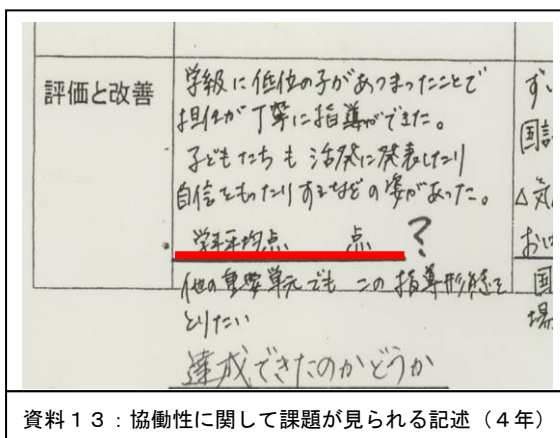
資料12：A－ウエに関する協議の抜粋

縦に見てつながり具合を検討するように働きかけ、協議することによって、学年主任がさらなる具体化の必要性に気付いていった。

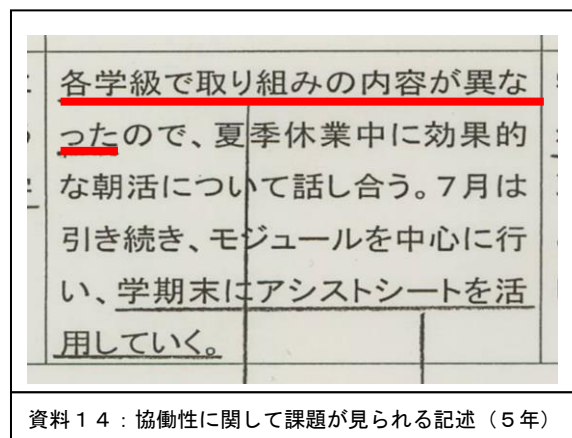
**B－アイ**

前回の学年主任会では、協働性について気になることや困っていることを出させ、役割分担を進めていこうという方向をもった。今回は、「評価・改善シート」の中から、協働性に関して気になる記述があったため、その部分を主幹教諭の方から提示して考えさせることにした。

気になる記述は資料13・14に示す部分である。



資料13：協働性に関して課題が見られる記述（4年）



資料14：協働性に関して課題が見られる記述（5年）

資料13では、指標を80点以上と設定していながら、結果の点数が空欄になっている。平均点が出ていないのはなぜかを尋ねると、平均点の入力日を決めていたにもかかわらず、担当が忘れていたり、間に合うように仕事をしていなかったりしたためであることがわかった。資料14は、6月の評価の部分である。「計算・漢字・音読」の取組を実施していくことを具体策に挙げていたにもかかわらず、独自の取組を実施するクラスがあり、下線部のような反省になったとのことである。

他の学年主任からも似たような悩みが出てきた。学年で計画していても全員で実行できていない状況があることや、その原因として、計画したことを忘れていたり、各自で実行に移す準備ができていなかったりすることが考えられるという。学校経営方針の経営課題に「共通理解、共通実践」とあることから、計画を確実に実施させるような働きかけが必要である。どのような働きかけができるか、主幹教諭として数日後に案を出すことにした。

### C-アイ

次の学年主任会は、数日後に実施し、主幹教諭から提案をすること、学年主任はそれまでに、シートの修正案を作り提出することと指示した。

### 数日後の学年主任会にむけて

「評価・改善」の際には、「評価・改善シート」を提示してきたことから、「計画・実施」の際にも、学年主任にシートを提示することを考えた。これまで、月末同学年会以外の月曜同学年会（同学年会A）では、学習の進捗や学年で決めておくようなことを話し合うようにしてきたが、その運営は学年に委ねてきた。今後は、学年主任は、主幹教諭が提示する「同学年会A（計画・実施）シート」を使いながら会を進行するようにする。シートを使うことで、計画していた内容の周知・具体化・役割分担を可能にできるようにしようと考えた。

校長先生の承認を得て、同学年会Aで話し合うべき必須事項を決め、月末同学年会（同学年会B）と対照できるように表にまとめた（表3）。そして、学年主任に使う「同学年会A（計画・実施）シート」のモデルを資料15のように作成した。

表3：同学年会の必須事項

同学年会Aの必須事項	同学年会Bの必須事項
<p>【ねらい】 決定事項の共通理解と共通実践にむけた内容の「周知・具体化・役割分担」をする。</p> <p><b>1 周知</b> 方法：教務週計画を見ながら、週の確認をする。 内容 □ 行事 □ 出張 □ 年休（補教と学年の協働） □ 朝活の内容 □ 時数 □ 週案提出 □ その他 ※ 確認したら、チェックをつける。</p> <p><b>2 具体化</b> 方法：週案に記録しながら行う。 内容：大まかに見直し、計画していたことについて、「何を・どのように」を決めたり、確認したりする。 Ex)朝活国語プリントは、ドリル〇番の漢字をする。</p> <p><b>3 役割分担</b> 方法：週案に記録しながら行う。 内容：具体化した内容について、「誰が、いつまでに」を決めたり、確認したりする。 Ex)朝活プリントは、〇〇が〇曜日までにする。</p> <p><b>4 その他</b> (1) 交流・反省 (2) コラム・読み物より ※ 教務週計画の裏に印刷 (3) 次回同学年会までしておくこと Ex)学級ごとに、プランの反省をメモしておくこと。</p>	<p>【ねらい】 学力向上プランの取組を焦点化・重点化し、全員で、評価・改善を行う。</p> <p><b>1 事前</b> □ 各担当が、教育指導計画の中の「評価・改善シート」に学級の反省を記入しておく。</p> <p><b>2 事中</b> □ 各担当が、反省を出し合う。 □ 学年で決めた3つの指標の達成状況を評価し、今月の「評価・改善シート」に記入する。 □ 次月の指標と具体策を決めて、次の月の「評価・改善シート」に記入する。</p> <p><b>3 事後</b> □ シートを同学年会ファイルに綴じる。</p> <p><b>4 その他</b> □ 「学年経営の重点」の反省を教育指導計画にメモする。 ※ 学年主任会では、以下の内容について確認・報告・協議します。 ① 同学年会の運営面について □ 同学年会の必須事項を落とさずに会を進行できたか。 ② 同学年会Bの内容面について □ 指標と具体策の妥当性 □ 実施状況 □ 評価・改善のつながり ※ 昨年度までは、「学年経営の重点」の反省も報告してきたが、本年度は「学力向上プラン」だけの報告とする。 (理由)・時間の確保が難しい。 ・焦点化・重点化したことを確実にを行う。</p>

**【同学年会A（計画・実施）シート】 第（7）週**

① **【周知】週の確認(火～次週の月)チェック**

- 行事 出張 年休(補教と学年の協働)
- 朝活の内容 授業時数・カウント 週案の提出
- その他( )
  - 歯科検診(20日(水)13:30～)※ 歯みがき指導 昼食後のうがい指導
  - 眼科検診(22日(金)14:30～)

② **【具体化】する内容について**

- 体カテストについて(21日(木)3,4校時)
  - ・ 2時間で行う種目
  - ・ 担当割り 《補助》野田先生、野見山先生、(浅利先生)
  - ・ 子ども達の周り方
  - ・ 残りの種目の進め方
- 算数「少数×少数」の形成的評価テスト【大脇】
- 「マット運動」でのコーディネーショントレーニングについて【大脇】
- 学年掲示板の構想について【高村】
- 音読計算の達成目標について
- 給食指導について【大脇】
- 今週の道徳について【縄田】

② **【役割分担】することについて**

【朝活プリント、音読計算、教具、外部との連絡、提出物等、他学年との連絡調整等】

- 誰が、いつまでに、何を
  - 朝の活動

曜日	月	火	水	木	金
内容	少数×少数	係活動	わり算	国語の読み取り	仲間集会
担当	大脇		高村	縄田	縄田

※ 答えまで担当が用意

- 総合【            】
- 来週の道徳について【            】
- 性に関する教育【            】
- 平和学習・平和集会について【            】
- 朝顔の用意【            】
- 水泳指導の進め方【            】

③ **実践交流【前週の反省等】**

④ **ミニ研修【コラムを読んで】**

⑤ **次回の同学年会までにしておくこと**

- 「リレー」でのコーディネーショントレーニングの提案【大脇】
- 算数「少数÷少数」の形成的評価テスト【縄田】
- 来週の道徳について【            】
- 水泳指導の進め方【            】

⑥ **資料のファイリング、提出**

資料15:「同学年会A（計画・実施）シート」のモデル



資料17の記述では、①②③の全ての内容が表出されている。主幹教諭の働きかけ【A-ウ】により、シートの付加・修正の必要性が学年主任によって認識されたことで、同学年会での再検討が行われ、より実効性のある具体策を生み出している。それを学年で共通実践したことで、児童に望ましい変容がみられたと感じている。このことから、主幹教諭の働きかけをきっかけとして、児童にまで浸透するまでに学力向上プランが機能化していることが分かる。

学年のメンバー②役割分担をしたり、子どもに対して個別に指導したりと取りくみにも工夫がみられた。どのクラスも90以上の達成率①最適な指標や具体策へと改善し実行したり②学年がまとまって実践したりすることで、学力を伸ばすことにつながった。

資料18：3年学年主任の記述内容の一部

資料18の記述では、主幹教諭の働きかけ【B-アイ】により、協働性が高まり、具体策も有効に働いて、児童の学力を向上させていると感じている。この記述からも、学力向上プランが機能していることが分かる。

何を学年会でやるのか明確にしたり進め方がスムーズにスタート。限られた時間の中で②かなり率的に進められるようになった。

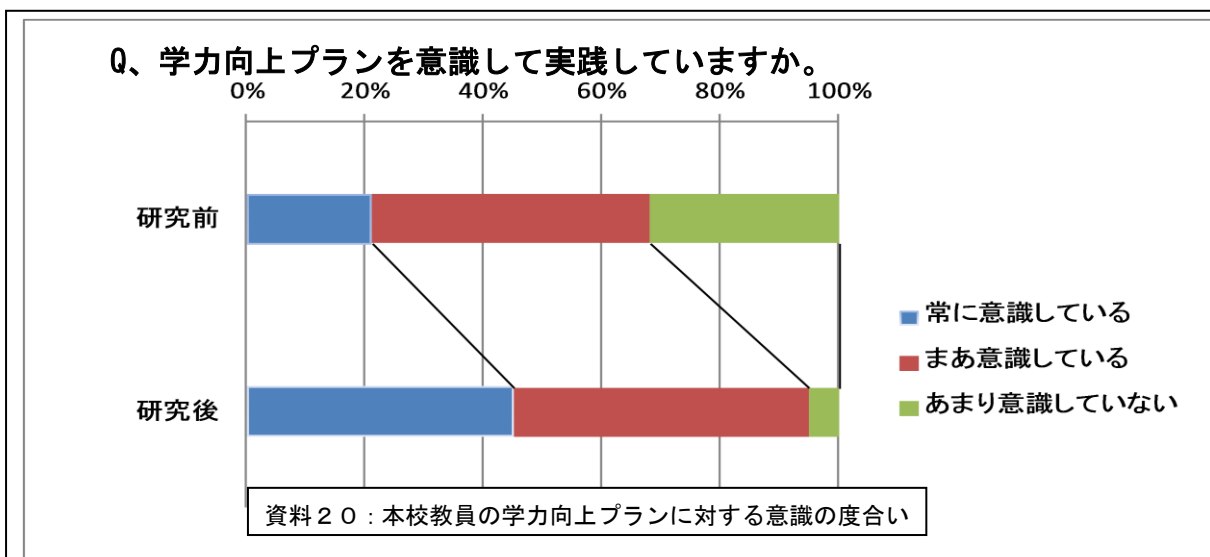
資料19：6年学年主任の記述内容の一部

資料19の記述では、主幹教諭の働きかけ【C-アイ】により、学年主任として成員への働きかけを明確にもって同学年会を進行できたことが分かる。

これらのことから、学年主任に対する主幹教諭の働きかけが有効に働いたものと判断する。

## (2) 学力向上プランの機能化に係る教師アンケートの結果

資料20に示すグラフは、本校教員の学力向上プランに関する意識調査の一部である。

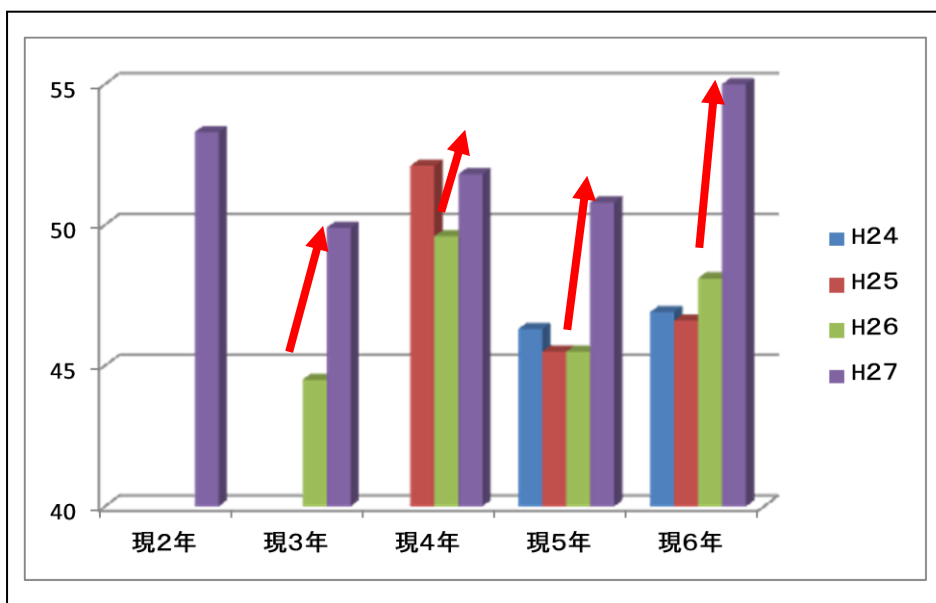




研究前と研究後を比較すると、常に意識している教員が2倍以上になり、それに伴ってあまり意識していない教員は大幅に減ったことが分かる。取り組みにより、全体として意識が向上したといえる。

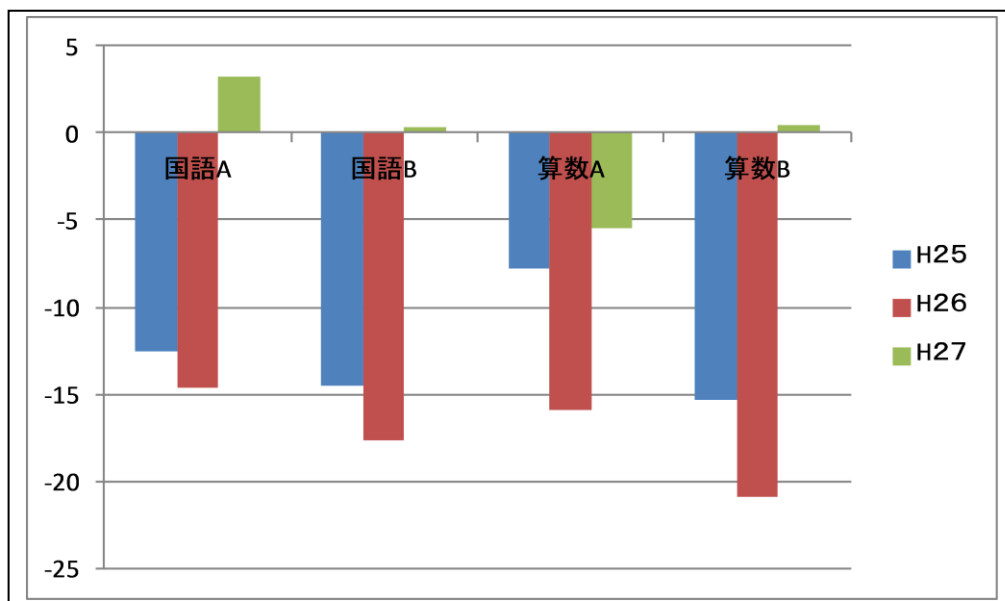
### (3) 児童の学力の変容

以下に示す資料は、児童の学力の経年変化を表すグラフである。資料21はNRT学力調査結果、資料22は全国学力状況調査結果である。



資料21：平成23年度から27年度におけるNRT学力検査結果

課題が見られた低学年も、課題を克服してきたことが分かる。また、全ての学年が前年度よりもポイントをあげている。学校総合のポイント数も、前年度から5.7ポイント上がり、52.4ポイントになった。



資料22：平成25年度から27年度における全国学力調査結果の全国との比較

全国調査開始からこれまで、全国から20ポイントも低い状況も見られた中、今回の結果は、全国平均を上回ることができた。算数Aにおいては、課題の分析が必要だが、それ以外は概ね

好転し、学力向上プランが機能化していると判断する。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- 「評価・改善シート」を主幹教諭が視点をもって分析することや、学年主任会での働きかけをねらいをもって行うことによって、学年主任に対する指導・助言、指示に一貫性ができた。そのことで、指導・助言、指示を受けとる学年主任にとっては、学び合いの場、学年主任としての役割を自覚する場としての学年主任会にできた。
- 「評価・改善シート」を活用し、主幹教諭が学年主任に対して指導・助言、指示を与えたことで、学年主任にプランを改善する視点と見通しをもたせることができた。その後の同同学年会で「評価・改善シート」を再検討し、実効性の高いプランに付加・修正・強化できた。また、学年の協働性を高め、共通理解から共通実践に結び付けることができた。さらに、確実な実践によって、児童の学力に伸びが見られた。
- 学力向上プランの機能化に係っては、プランの内容の深化はもとより、協働性の程度が機能化の成否にかかっていると考える。学年主任会の中で、学年主任から学年経営面で直面している協働性の課題を吸い上げることで、課題解決に向けたサポートができた。このことで、ミドル・アップダウン・マネジメントのよさを学年主任会のメンバーで共有でき、ミドルリーダーとしての士気を高めることにつながった。

### (2) 課題

- 「評価・改善シート」の作成に当たっては、各学年に主体性をもたせる意味で、学年独自に指標を決め具体策を立てさせている。今後は、学期の重点や月の重点等を学力向上委員会で策定しながら進め、より組織的な取組を推進する。
- 全ての学級で学力アップできたが、高まり具合に学級間格差がみられる。今後は、有効な手立てを共有しながら格差を縮め、全ての学級が平均値を超えるように取り組む。

### <参考文献>

- ・八尾坂 修（2008年）「主幹教諭―その機能・役割と学校の組織運営体制の改善―」教育開発研究所
- ・田村 智子（2011年）「実践・カリキュラムマネジメント」ぎょうせい
- ・高階 玲治（2008年）「見てわかる！教務担当マニュアル」東洋館出版社
- ・福岡県教育委員会「活力ある学校運営の手引き」
- ・無藤 隆・嶋野 道弘（2008年）「確かな学力の育成」「新教育課程を実現する教育システム」ぎょうせい